

アジア水化学シンポジウム2017瀋陽 参加雑感

日本原子力発電（株）中野佑介

2017年9月26日～28日に中国 遼寧省 瀋陽市において開催されたアジア水化学シンポジウム2017に参加してきました。瀋陽市は中国の東北地方に位置する都市で、緯度は日本の函館とほぼ同じであるため、東京と比べるとやや肌寒く感じられました。

瀋陽は日本人にとってはあまり馴染みの無い土地ではあったものの東北地方最大の都市ということで近年建てられたであろうビル群が並び路面電車や地下鉄の整備も進んでいるようでした。対照的に以前からあったであろう古い建物も多く、中国の急速な経済発展の様子を肌で感じる事が出来ました。

シンポジウムはヒルトンダブルツリー瀋陽というアメリカ資本の近代的なホテルを会場として行われ、会場の広さや設備に関してはとても充実していたと思います。参加登録者数147名の内、日本からの参加者は開催国中国に次ぐ13名であり、皆様口頭発表や座長などの場において大いに活躍しておられました。

また、今回は中国で例年行われている原子力材料関連の国際会議（**International Symposium on Materials and Reliability in Nuclear Power Plants**）との共同開催であったため、中国からは材料分野を専門に研究を行っている大学や研究所の研究者の参加や発表が多く、水化学の運用技術に関する報告は相対的に少なかった印象を受けました。一方で、共同開催でなければこれほど盛況なシンポジウムにはならなかったと考えると、今後日本での開催を検討する上でもアジア全体の動向を勘案しつつ、材料などの他分野との共同開催を視野に入れていかなければならないと感じました。

2日目の夜には参加者全員を対象としたバンケットが豪華な中国料理とたくさんのアトラクションに彩られ、盛大に催されました。アトラクションは中国の伝統芸能、マジックや歌謡ショーなどかなり力を入れている印象で、個人的には少し過剰かと感じましたが、これが中国のおもてなし文化なのかと思います。

3日目には材料関係のワークショップ（**3rd Asian Forum on Material Aging Issues in Nuclear System: 3rd AF_MAINS**）と瀋陽市の観光を目的としたテクニカルツアーがあり、私はテクニカルツアーに参加しました。ツアー先はLaobian Valleyという紅葉の名所で、現地ではほぼ自由行動で散策を行うというものでした。紅葉の見ごろには少し早い時期ではありましたが、中国という異国の地で日本人にも馴染み深い紅葉を見られたのは良い経験となったと思います。このように日本人がなかなか旅行で訪れない場所に行けるのも国際会議の醍醐味の一つではないでしょうか。

以上



写真 Laobian Valley の紅葉の様子